

【伊勢市非核平和都市宣言】

世界の恒久平和は、人類共通の願いです。

私たちは、世界で唯一の核被爆国民として、また、日本国憲法に基づき、核兵器の廃絶と軍備縮小を全世界に訴えるとともに、「持たず・作らず・持ち込ませず」の非核三原則が完全に実施されることを希求し、市民の平和と幸福を願い、ここに「非核平和都市」を宣言します。

平成18（2006）年7月11日

【9月21日「国際平和デー」】

◆「国際平和デー」はいつからはじまったの？

国際連合が「国際平和デー」を最初に宣言したのは1981年です。はじめは、毎年9月の国際連合総会開会日が国際平和デーとされ、開会式では各国代表による1分間の黙とうが行われていました。2002年からは、毎年9月21日とされ、全世界の停戦と非暴力の日として、すべての国と人々に、この日1日は敵対行為を停止するよう働きかけています。

◆日本から送られた平和の鐘

ニューヨークの国際連合前には、平和の鐘が設置されています。これは、1954年に国際連合に送られたものです。当時の国際連合の加盟国のコインを溶かして作られたもので、毎年の「国際平和デー」には国連事務総長がこの平和の鐘を鳴らす特別記念行事が行われています。

◆何をすればよいの？

家族や友達と平和について考えることが大切です。今、私たちが暮らしている日本や伊勢市が平和なのはなぜか、世界が平和になるためには何が必要かなど、「国際平和デー」をきっかけに考えてみてください。

平和と人権

～戦争のない平和な世界を～



伊勢市環境生活部
人権政策課

TEL (0596) 21-5545
URL <https://www.city.ise.mie.jp>



平和と人権

恒久的な世界平和は、すべての人々の願いです。

しかし、世界各地では依然として戦争が勃発しており、毎日のように尊い人命が奪われ、幸せな日常が破壊されています。平和に反する戦争は、人権に対する重大な脅威であり、許しがたい行為です。

【戦争がもたらすもの】

戦争は「最大の人権侵害」といわれます。

戦争の本質は、極めて原始的・暴力的な紛争の解決手段です。ひとたび戦争が起きれば、当事国や周辺国の社会や経済のあらゆる部分に打撃を与えます。突然暴力に巻き込まれ、国の利益やイデオロギーを優先するために人権がないがしろにされ、命や財産などすべてが根こそぎ奪いつくされてしまいます。

たとえ直接戦争に関わっていなかったとしても、世界全体に大きな影響を与えます。国交が断絶し輸出入がストップすると、産業の多くが機能不全に陥ります。また、当事国や周辺国に家族・身内がいる人は、安否が確認できるまで大きな不安を抱えることとなります。戦争は決して「国」と「国」だけの問題ではないのです。

そして、戦争に巻き込まれると、「被害者」になるだけでなく、「加害者」になってしまうことも考えられます。過去二度にわたる世界大戦についても、戦争を仕掛けた国や応戦した国だけが悪いということだけでなく、「全人類共通の罪」として心に留め置かなければなりません。



【世界の状況】

世界では、未だに戦火に見舞われている地域が多数存在します。

争いの多くは、民族同士が抱える問題や経済的な動機が理由となっていますが、宗教や思想信条といった観念的な事象に起因する場合も少なくありません。いずれにしてもそれらの争いの根っこの部分は、当事者でないものが想像するよりずっと深いものです。国や地域ごとに言葉が違いうように、物事に対する考え方や受け止め方にも大きな違いがあります。それぞれがお互いの正義に従って行動しているため、違う考えを持った相手との間に摩擦や衝突が生じてしまうのは仕方のないことかもしれません。

しかし、どれほど崇高な思想を掲げていても、武力で物事を解決する手段を採ってしまえば、それはただの「暴力行為」です。いかなる理由があつたとしても、いたずらに人命を損なわせるような行為は、絶対に正当化されてはなりません。

平和的な終結を迎えるためには、世界のすべての人々がお互いに認め合い、譲り合う精神を抱く必要があります。それが「相互理解」という、人権の根本的な考え方につながっていくのです。

【日本の役割】

わが国はしばしば、「敗戦国であり唯一の被爆国」と表現されることがあります。

先の世界大戦において、戦地であるいは国内へ攻撃で多くの命が奪われた上に、現在も後遺症などで心身ともに苦しんでいる方々がおられます。

戦後70数年が経ち、戦争体験を鮮明に記憶している世代は、もう80～90代前後となられています。戦争の悲惨さを風化させないためにも、記録を残し、教訓として語り継いでいくことが急務とされています。

ただ、過去を顧みる場合、戦争当時の感情にまかせるばかりでなく、今の時代にふさわしい考え方のもとで、活動を展開することが必要です。

これから先、将来にわたって二度と戦争を起こさないよう、恒久平和を全世界に向けて発信していくことこそが、敗戦国であり被爆国である日本にしかできない役割であると考えます。